ABWに向けた現状の業務遂行場所に関するプレ実態調査

ー対面とオンラインの業務場所の比較についてー

○笠松 慶子（東京都立大学システムデザイン学部）

福住 伸一（理化学研究所AIPセンター/東京都立大学）

Pre-survey on current work locations for ABW

-Comparison of face-to-face and online work locations-

Keiko KASAMATSU (Faculty of Systems Design, Tokyo Metropolitan University),

Shin'ichi FUKUZUMI (Center for AIP, RIKEN/ Tokyo Metropolitan University)

1. はじめに

働き方改革やテレワークなどが推進されている中、コロナ禍でこれらが好むと好まざるとに関わらず一気に世の中に浸透してきた。しかし、同じ業務を行うにあたり場所を変えただけ、ということでは、働く人にとって必ずしも良い影響を及ぼすとは限らないと考える。

Activity Based Working (ABW)に関する研究は増えており、その成果がオフィスに活用されているが、まだ広く浸透しているとは言い難い。

本稿では、業務と場所の視点からこれからの働き方を再考するため、現状の業務とその業務を行っている場所に関して調査を行った。まずは、現状、「どのような場所で業務をしているか」について明らかにすることを目的とした。

2. 方法

Webアンケートを用いて調査を行った。調査対象者はABW検討委員会の各委員が直接／間接に依頼した175名で、調査期間は2020年12月12日～2021年1月10日であった。対象者には「ここ3ヶ月程度状況について回答してもらった。フェイス項目として、年齢層、職種（7分類）、裁量権（5段階）を設け、調査項目は、業務として17項目（表1）、それぞれの業務を行っている場所について、オフィス、自宅、その他の場所の3つのブロックに分け、それぞれ、12項目、9項目、6項目の合計27項目（表2）を選定した。回答は、ここ3ヶ月に各業務を行ったか否かを回答し、行った場合は、どこでどの程度（5：ほぼ毎日、4：週に2～3回、3：週に1回、2：月に2～3回、1：月に1回）であったかを選択する方式とした。

各業務の結果については発表時に紹介する。本稿では、これらのうち主に業務内容の6から15に該当する対面とオンラインの比較について報告す

表1 業務内容17項目

【業務】17項目
1. 資料作成
2. 調査・情報収集
3. アイデア・企画構想
4. 間接・定型業務（雑務、人事、精算、出張等伝票処理）
5. マネジメント関連業務（承認、人事評価業務）
6. 報連相（対面）
7. 報連相（オンライン）
8. 社内会議・打ち合わせ・面接など（対面）
9. 社内会議・打ち合わせ・面接など（オンライン）
10. 社外会議・打ち合わせ（対面）
11. 社外会議・打ち合わせ（オンライン）
12. セミナー等（聴講、発表）（対面）
13. セミナー等（聴講、発表）（オンライン）
14. 雑談・交流（対面）
15. 雑談・交流（オンライン）
16. 休憩（お昼休みを含む）
17. その他：煮詰まった時、逃げ場（休憩とは異なる）

表2 業務を行っている場所に関する項目

オフィス関連の場所：12項目	自宅関連の場所：9項目	その他の場所：6項目
専有席（固定席）	書斎（個室、コーナー）	乗り物の中
フリーアドレス席（島、フロア固定など）	ダイニングキッチン	公共の場所（公園、広場、遊歩道などのベンチ、ホテルのロビーなど）
オープンミーティングエリア（協創エリア、プロジェクトエリア、イノベーションワークスペースなど）	リビング	コワーキングスペース
集中エリア（集中ブース、電話ブース、Web会議ブースなど）	トイレ	カフェ、レストラン
会議室	浴室	カラオケボックス、ホテルの部屋、レンタルルーム
ライブラリ	寝室	その他
食堂、カフェテリア	子供部屋	
キッチン、給湯室	テラス、屋上（ウッドデッキ、縁側、玄関土間なども含む）	
トイレ、シャワールーム	その他	
テラス、屋上		
ロビー、応接		
その他		

る。業務を高い頻度（5：ほぼ毎日、4：週に2～3回）で行っている場所はどこか、その内訳としてどのような職種であるかについて検討した。

3. 結果

対象者の内訳は、図1の通りであり、本調査では

管理職と専門職が多い割合であった。

「報連相」は、対面では、オープンミーティングエリア、フリーアドレス席、専有席で行われていることが多く、技術職はその他の場所など様々な場所で行っていた。オンラインでの場所については、オフィスでは対面と同様の場所であり、自宅では書斎、ダイニングである一方、寝室や浴室なども使用されていた。事務職、販売職、営業職は高頻度では行っていないことがわかった。

「社内会議・打ち合わせ・面接など」については、対面では、オープンミーティングエリア、会議室で行われていることが多く、オンラインでは、書斎、リビングであった。

「社外会議・打ち合わせ・商談など」については、対面では、会議室が多く、技術職はその他の場所など様々な場所で行っていた。オンラインの場所については、オフィスでは会議室の他、フリーアドレスやオープンミーティングエリアでも行われており、自宅では書斎、ダイニングであった。ここでも技術職は様々な場所で大になっていた。

「セミナー等（聴講、発表）」は、対面、オンラインとも高頻度で行っていたのは技術職であり、対面よりオンラインで行っていたことが多かった。

「雑談・交流」については、対面ではオープンミーティングエリア、フリーアドレス、専有席、食堂・カフェテリア、その他の場所でも行っていた。オンラインでは高頻度で行うことが少なくなっていることがわかった。（図2）

4. 考察

以上より、業務によって高頻度で行う職種が限られること、高頻度で行う場所はオープンミーティングエリアやフリーアドレスなどであるが、キッチンやトイレ、テラスなどでも業務を行っている結果が得られた。このように、これまでは働く場所としてのオフィスを作ってきたが、そうではない場所で業務を行っていることがわかった。

今回は、業務をどの場所で行っているか、それはどのようなカテゴリーかを見るために、職種を用いたが、職種というカテゴリーが適切かどうかは疑問が残るところではある。職種といってもその業務の内容は以前より多岐にわたっていることが多い。そのため、職種や職位というカテゴリーではないカテゴリーで見ていく必要がある。

ABWの目的を的確に実現するためには、業務と

図1 対象者の内訳割合

図2 「雑談・交流」

場所に関するガイドラインなどの提案だけでなく、業務評価や組織マネジメントをも考慮に入れて検討する必要があると考えている。ABWを推進していく上で達成目標や人事評価はこれまでの延長線上に設定するのではなく、空間・環境がどのように影響するか、について考慮する必要があるのではないかと考える。

謝辞：ABW標準化委員会および調査にご協力いただいた皆様に感謝します。